

# 9月のモーニングセミナー

## 「壁を破れ」

社団法人倫理研究所 常任理事  
普及本部長 中西 浩様

▼物事の受け止め方には「明朗」と「暗憂」の2通りがあります。同じものを見たり、同じものを聞いてもプラスとして明るくそれを受け止められる人、逆にマイナスに受け止めて運が悪いと暗くそれを感じ取る人がいます。▼いかに明るく積極的に肯定的に受け止めていくかが大切なのですが、中には片意地、強情、とり越し苦労というように暗い方向に向かい、何か起きると次にもつと悪いことが起きるのではないかと心配ばかりなされている方がおられます。「社長、なるようにしかありませんよ」と言うのですが、そうは言ってもという気持ちがあるという方にはあるものです。▼今の社会情勢はたくさん経営者が無風の中で風揚げしているようなものです。皆がひもを持って良い風が吹くのをじっと待っています。好況の風が私たちの業種、業界に吹いてくれないかなあとそれをずっと大変だ大変だと言いつつ待っているのです。しかしいつまで経っても風が吹きませんからひもを握ったまま出てくるのは愚痴と不満です。▼風が吹かなければ自分が走ればよい。ひもを持って走れば当然風は起きて

自然と風は上がるのに、皆他人任せであります。自分の手で何故環境というものをちよっぴり動かそうとしないのでしょうか。▼無風の中で一握りの気づいた方々が走っているのです。走り止めると風は落ちてしましますから、ただひたむきに走っている。しかし、多くの方々は風が吹くのをじっと待っているだけあります。▼私達には、思ってもみないような事柄が良いことも悪いこともたくさん起きてきます。それらは自分に関わりがあるから自分に起きたと肯定をすることです。それらを解決する力が自分にあるから起きてきたと真っ直ぐに受け止めれば良いのです。▼壁はなかなか思い通りに動かないものです。これはお仕事上での話だけではなく、足元の家庭のことや子供のことで、社員のことも含めた話です。なかなか意のままにならないことは大きい小さいがあるにしても全て壁です。壁ができてきたことは自分に関係があるからということ肯定をすることです。なんでこんな厄介なことが持ち込まれてくるのか、何故なら持ち込まれるだけの力があるからと受け止めていけば良いのです。まだ向上の余地があるからなのだと受け止めたところから始まるのです。壁を拒否すると、ますます状況というのはおかしくなります。自分の身の回りで生じたことは極力明るく受け止めることです。

▼倫理の実践の最大の眼目。それは「明朗」です。丸山敏雄が説いた倫理というものは限りなく前向きで肯定的なものです。限りなく底抜けに明るくなければ倫理ではないと申し上げます。苦難が無ければ学ぶ材料はありません。

## 「フナやかな一念」

石の浄朝(有)  
代表取締役 吉田朝夫様

▼作谷沢は500俵しか取れませんが。そういう場所で経済的な自立が可能なか試してみたいと思いましたが。それをやらない限り地域としての経済的な方向が見つけ出せないのです。皆が山形に流れていく中で、私は作谷沢でもがいてみようという決心をしました。▼いろいろなことをやりはじめて気づいたことは、作谷沢という井戸には地下水脈があるのです。汲んでも汲んでも新しい水が供給されるのが井戸なのです。井戸は水脈でどんどんつながっています。次の時代の目指すべき方向を見つかることができるのは、もしかしたら作谷沢のような集落かもしれない。▼私が歩んできた中で大事だったのは、挑戦してこれ以上先には行けないという所に来た時に、やっと初めてスタートラインにたのたのと思うことでした。そこからどういう風にしては始めるのかというのが私のスタンスです。うまくいかないのはまだ時期が来ないと素直に受け止めて、諦めずにちよっ



平成22年度モーニングセミナー 皆出席表彰  
でん六・ヘアサロン梅津・大場印刷の3社が昨年度50回のMSを皆出席されたので表彰されました。おめでとうございます。(MS委員長 市村清勝)

※鈴木県会長講話は、次号の広報最上川に掲載されますのでそちらをご覧ください。

# 山形市蔵王 倫理法人会

第47号  
発行：平成22年10月1日

# 蔵王

会報

感動と出会いの輪を拓けよう! No.3



## 「感動創輪」4つの実践

山形市蔵王倫理法人会  
会長 池田修一



3期目を迎えた山形市蔵王会長の池田修一です。  
今年度の山形市蔵王の理念と活動方針は、鈴木相談役が2代目会長の時に出された理念と方針をそのまま踏襲しながらやっています。

- ①山形市蔵王倫理法人会は日本創生を目指そう
- ②会員企業の倫理経営を応援しよう
- ③日本一のMSを実現しよう
- ④喜働を実践し人を励ませよう
- ⑤家族に感謝しよう
- ⑥朝礼を充実させよう
- ⑦企業経営と蔵王経営を一对の反射鏡としよう

この中で日本創生、倫理経営、

企業経営、蔵王経営という言葉の意味が、なかなか理解されにくいのかなとも思います。では、具体的に何をすべきかというところで、自分でもできる実践内容を四点ほどお伝えしたいと思います。  
一番目は自分から率先していろいろなことをやってみようという「率先垂範」です。二番目は小さなことに磨きをかける。これは挨拶・返事・後始末の「驍の3原則」をしつかりやろうということ。三つ目は「心を先行させる」です。私は会社の入口の看板を磨く、玄関先を綺麗にする、窓ガラスを拭くことを日課としております。また、毎週日曜日には会社のトイレ掃除をしております。これらを倫理に入ってきておらずとやってくるおそれがありますが、それをする場合に「皆も手伝ってあげればよいなあ」とか、「何で毎日汚くするのかなあ」とかそんなことを考えると駄目なんです。感謝の気持ちを「先行」させて素直な気持ちでやるとそこから教えられることが結構あります。それが「心を先行させる」

## 10月のMS

- 10月2日(土) 第331回 『信に生きたい 布施弥七十一代より十二代へバトンタッチ』  
講師：山形市蔵王 副会長 布施富将 様
- 10月9日(土) 第332回 『日本人は中国人を理解出来ない』  
講師：㈱ニシタニ 代表取締役 西谷 一 様
- 10月16日(土) 第333回 『亀松閣と私』  
講師：亀松閣 若女将 笹原史恵 様
- 10月23日(土) 第334回 『磨け！実践力』  
講師：(社)倫理研究所 法人局 北海道・東北方面 方面長 荒木良仁 様
- 10月30日(土) 第335回 『映画祭まであと一年』  
講師：山形国際ドキュメンタリー映画祭 高橋卓也 様

という言葉だと思えます。四番目は「家庭の調和、夫婦の愛和」です。色んな方々に一番大切なものは何ですか？と尋ねると、答えは家族が1番、2番目が友達、3番目には仕事となるのかなと思えますが、働く意欲をもたらず家族、かみさん、子どもさんに感謝の気持ちを持ちながらやるといふことです。  
例えば奥さんをさんづけで呼びましょうということですが、私自身、毎日やっているかというところかというところが、あります。うちのかみさんは「会長は毎日智子さんと呼んでいますが？」と聞かれました。「頼みごとをするときだけ智子さんと呼ぶみたいですよ」と答えているようです。  
会員さんの中には、奥さんを初めてさんづけで呼んだら、それまで亭主関白でいたのだけれどもポロポロ泣かれてしまった。また、蔵王のスローガンは「感動と出会いの輪を拓けよう」です。「人生とは多彩なる出会いの連続」であり、人との出会いだけではなく、自然との出会い、本や言葉との出会いと、いろいろなものとの出会いがあります。それを拓けていきたいと思います。感動に日本創生と輪を合わせたのが「感動創輪」。感動創輪の蔵王倫理法人会を今年度もどうぞよろしく!



# 秋のふれあい家族芋煮会 写真集

9月26日に開催されました秋のふれあい家族芋煮会が、倫研新報11月号に掲載されることになりました。記事をお楽しみに。

## 新会員歓迎会並びに新旧役員懇親会

9月15日に蔵王会員の「焼肉苑様」において、新会員歓迎会並びに新旧役員懇親会が開催されました。新会員17名を含め総勢40名に御参加いただき会場は超満員。旧役員として参加された、伊藤前MS副委員長、丹野前副事務長には会の運営に大変お世話になりました。新会員の皆様との交流も深まり蔵王もますます活性化することでしょう。



ボリューム満点!!

会場は満員盛況

あさひ鮭さんの握り

伊藤前MS副委員長と丹野前副事務長